

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第2学年国語科学習指導案

単元名 そうぞうしたことを音読げきであらわそう ～ようこそ 「お手紙」のせかいへ～

学習材名「お手紙」(光村図書出版 2年)

日時：令和6年2月16日(金) 5校時

児童：江東区立第二辰巳小学校 第2学年3組 31名

担任名：江東区立第二辰巳小学校 教諭 前田 愛子

指導者：杉並区立高井戸第二小学校 主任教諭 山地 智美

1 単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(知識及び理解)(1)ク
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思考力、判断力、表現力等)(1)イ
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思考力、判断力、表現力等)(1)エ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思考力、判断力、表現力等)(1)カ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って、考えたことを音読劇で表現しようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

2年上の「ふきのとう」の学習では、お話を読み、役に分かれて音読をした。何度も音読することで繰り返しや脚韻などのリズムや響きを楽しんだり、場面の様子を具体的にイメージしたりすることができた。続く「スイミー」の学習では、スイミーの行動や会話に着目し、スイミーの人物像をまとめた。また、あらすじと自分の思ったことを組み合わせて、お話の紹介文を書く言語活動を行った。児童は、文学的な文章の読

み取りにおいては、挿絵や叙述を基に場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像する経験を積み重ねてきた。

これらの学習と実態を踏まえ、本単元では、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する必然性が生まれる音読劇を行う。音読発表会の経験や多少の身振り手振りや動きをつけた音読の経験はあるが、音読劇は初めてである。しかし、児童全員が興味関心をもって意欲的に取り組める言語活動であるといえよう。これまでの文学的な文章の読みを振り返らせることで、児童が既習事項を生かして文章を理解できるようにするとともに、グループに分かれて、役割を決め、繰り返し音読することで、言葉のもつ意味を捉えたり、自分が理解したことを表出させたりしていく。友達との交流を通して、友達を大切に思う「お手紙」の世界を十分に味わわせていきたい。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習は一度も手紙をもらったことのない「がまくん」と、友達の不幸せを共に悲しむ「かえるくん」が一通の手紙を通して、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。二人の心情が場面によって変化する。4日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を仲良く待つ二人の心の交流が会話を通して描かれている。2年生になり友達との関わりが広がり、互いに関心をもち始めている児童にとって相手を思いやる気持ちに共感しやすく、自分の生活と重ね合わせて読み進めていくことができる物語である。

また、場面の様子や登場人物の行動、会話、挿絵から「何をしたのか、どのような表情、口調、様子だったのか」を具体的にイメージすることで、気持ちを想像しやすい。会話文を主として物語が進行するため、音読劇に最適な学習材であるといえる。

(3) 単元について（単元観）

本単元の言語活動は音読劇である。読み方や動作を工夫するために、根拠となる叙述を基に人物の行動と様子を詳しく読み、登場人物の行動を具体的に想像することにつなげる。その際、「かなしい」や「ふしあわせ」、「しあわせ」などの直接的な言葉の捉えだけでなく、そのように思う理由や登場人物によって言葉に含まれる中身の違いがあることにも気付かせ、言葉に着目することで物語が広がることを体験させていく。

導入時には、他校で行った音読劇の動画を見せて、音読劇を知るとともに「自分たちもあんなふうに演じたい。上手に演じるにはどうしたらいいのか。」という課題意識をもたせていくようにする。相手に伝わる音読劇をするためには、登場人物の行動や会話から登場人物の気持ちを深く理解する必要があることを確認する。

単元を通して、解釈と音読とを繰り返し行う。グループで「こんなふうに読みたい。ここはこんな気持ちだと思う。だって、ここにこう書いてあったよ。」などといった交流活動や音読を繰り返す。そうして、自分の考えだけでなく他者との協働を充実させることで、文章中の言葉を多角的に捉えたり、問い直したりできるようにし、物語を読む楽しさを味わえる自立した学習者を育てていく。さらに、シリーズ本の並行読書をすすめ、魅力あふれる登場人物との対話を深めたり、ストーリーの仕掛けなどにも気付かせたりしていきたい。

4 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

読むこと部では、「読むこと」の学習における「言葉による見方・考え方」を以下のように捉えた。

【説明的な文章において】

言葉による見方とは、社会的事象、自然科学的事象について書かれた文章を、「社会的な見方・考え方」や「理学的な見方・考え方」で内容を理解することに加え、その文章で、どのように対象（事象）を言語化し、言葉と言葉が関係付けられているか、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているか、どのような感想や意見などを持っているのか、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかに着目することであると捉えた。言葉による考え方とは、課題解決に向けて叙述を基に比較したり、順序や理由を考えたり、要約したり、評価したりすることと捉えた。そして、論理的に説明する言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

【文学的な文章において】

言葉による見方とは、物語などのエピソード（出来事）の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係付けがどうなっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているかに着目することであると捉えた。言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心

情や表現の効果などについて、叙述を基に比較したり、類推したり、因果を捉えたり、分類したりすることと
考えた。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると
捉えた。

5 研究主題に迫るために

(1)児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

「読むこと部」では、「身に付けたい力」とは、教師の立場からすると「指導事項」、児童の立場からすると「読みの観点(気を付けて読むこと)」と捉えている。(例:場面の移り変わり、表現の工夫、人物の相互関係など)以下2つの手立てによって、児童が単元を通して「読みの観点」を意識して学習できるようにする。

①「読みの観点」の共有

○モデル動画の活用

単元導入において、音読劇のモデル動画を鑑賞し、自分達もやってみたいという意欲を高める。鑑賞後、気付いたことを話し合う活動を行う。その中で、音読劇では本文中に描かれていない登場人物の様子(表情・口調・動き)が表現されていることに気付かせる。また、それは登場人物の気持ちと深く関係していることを確認する。そのうえで、「気持ちが表れている言葉や行動」と「気持ちが表れている言い方や表情」の2点を読みの観点として提示する。

②学習課題の工夫

○音読劇と学習課題のつながりの明確化

音読劇のモデル動画のように、登場人物の様子や人柄がよく分かる音読劇をするためするには、二つの読みの観点に着目しながら、登場人物の行動やその理由を考え、想像したことを音読劇で表す必要があることを確認する。本単元では、第一次において、感想を話し合う活動を設定している。その中で、登場人物の様子や人柄を想像するには、挿絵や会話にも着目するとよく分かるということに気付かせ、登場人物の様子や人柄を音読劇で表したいという思いをもたせる。第二次では、音読劇の工夫を考える。まず始めは共通の学習課題で学び方を習得し、最後には、それぞれの児童がお気に入りの場面を選び、音読劇の工夫を考える。その際、児童の学習感想を基に、場面ごとに学習課題を設定する。児童は自分が選んだ場面の学習課題を解決することを通して、登場人物の様子や人柄を豊かに想像し、音読劇に生かすことができると考えた。

【「お手紙」における、言葉による見方・考え方を働かせたい叙述の例】

上記のように、本単元では、児童の学習感想を基に本文の叙述から学習課題を設定する。その学習課題を解決するためには、二つの「読みの観点(気を付けて読むこと)」を意識して読むことが不可欠であり、児童は一つ一つの言葉に注意しながら本文を丁寧に読んだり、グループや学級で話し合ったりすることを通して自身の「言葉による見方・考え方」を働かせることができる。言葉に着目することで、物語の読みが深まることや「かなしい」「ふしあわせ」という直接的な言葉だけではなく、行動や会話・様子・口調などからも登場人物の様子や人柄を想像できることに気付かせたい。

叙述	考えさせたいこと	読みの観点(気を付けて読むこと)
ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下していました。	・なぜ、「ふたりとも」悲しい気分なのか。 ・二人の悲しい気分の理由は同じなのか。	・気持ちが表れている言葉や行動 ・気持ちが表れている言い方・表情
ふたりとも、とてもしあわせな気もちでそこにすわっていました。	・二人は書いてあることが分かっている手紙を、どうして、長い間待っていたのか。 ・1場面と比べて何が違うか。その理由は何か。	

(2)学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもち。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

「読むこと部」では、「他者と協働する」とは、「文章中の言葉を媒体として多様な考えに触れることで自分の考えを見直す」と捉えている。児童同士の考えの交流だけでなく、作者・筆者・登場人物等との

対話も含まれる。以下二つの手立てによって、他者との協働を充実させることで、文章中の言葉をより多面的に捉えたり問い直したりすることができる考えた。

① 交流活動の工夫

○音読を互いに聞き合う活動の充実

単元末の言語活動である音読劇発表会に向けて、本単元では3名の児童を一つのグループとして、毎時間の交流を積み重ねることとした。読み取りと音読を繰り返しながら、音読劇台本を作っていくことで自分の読みを明確にしていく。毎時間音読劇をする前に、「ゆっくり・はやく・つよく・よわく・大・小・間・ひくく・たかく」などの読み方や、「口をとがらせて・すねた感じで・溜息をついて」などの表情・口調・動きなど叙述を基に想像したことを本文に書き込み、音読劇台本を作る。

- ・交流の際は、工夫して読むところを初めに発表し、見る人に意識させるようにする。
- ・音読劇発表後は発表者・鑑賞者ともに互いのよさ（工夫したところ）に気付ける時間をもつ。
- ・自分一人では気付かなかった登場人物の様子や人柄について、「音読劇台本」に追記できるようにする。
- ・身振り手振りだけでなく、動作を入れたり、台詞を覚えたり、追加したりと毎時間レベルアップできるようにする。
- ・他のグループと中間発表会を行ったり、同じ役柄同士での相談タイムを設けたりする。

② 発問の工夫

○叙述を問い直す発問の充実

音読劇では、本文中には描かれていない登場人物の様子や人柄を想像し、本文の音読に表情・口調・動きを加えて表現させたい。同じ文章を読んでも、それぞれ児童が想像することは違うため、グループ交流によって、児童同士の共通理解を図る。本単元では、交流活動の充実を図るために、児童の思考をゆさぶる発問を意図的に行う。このような発問によって、児童は登場人物の様子をより豊かに想像でき、音読劇をさらに充実させることができる考えた。

【例】

- ・人物ごとの「ふしあわせ」と「しあわせ」の中身を詳しく考える際、「ふたりとも」という叙述に着目し、「なぜ、手紙を出したかえるくんの方も『しあわせ』なのか。」
- ・最初と最後の場面の二人の様子を比べ、その理由を考える。
- ・「親愛なる」「親友」とは。

③ 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

「読むこと部」では、「言語生活を豊かにする」とは、「説明的な文章や文学的な文章を読むよさや面白さに気付き、進んで読書をしたり、読書の幅を広げたりすること」と捉えている。以下二つの手立てによって、児童は「読みの観点」の活用場面を具体的に想定し、今後の言語生活に生かすことができる考えた。

① 振り返りの工夫

○読みの観点に即した振り返り

登場人物の様子や人柄が伝わる音読劇を行うために、二つの読みの観点「気持ちが表れている言葉や行動」と「気持ちが表れている言い方や表情」に着目して音読劇ができたかを振り返ったり、発表者・鑑賞者ともに互いのよさ（工夫したところ）に気付く評価をしたりすることで自分が身に付けた力を確認する。また、教師が見付けたグループのよさや工夫を紹介し、価値付けし、掲示していくことで学級全体のレベルアップを図る。

② 読書活動につなげる工夫

○シリーズ本の活用

本単元の学習を通して、言葉や挿絵から登場人物の様子や人柄を想像すること、言動の理由を考えることで登場人物への理解が深まり、より物語を深く理解できるように気付かせたい。シリーズの本はどれも短編で読みやすく、登場人物のほんわかとした友情が伝わるものである。学級文庫に配架し、児童がいつでも手に取れるようにしておく。また、他の作品から得た登場人物の人物像を授業で共有することにより、多角的に登場人物を理解することをねらう。同じ作家の文章を読むことは、物語の世界をより豊かに味わえることに気付かせていく。好奇心を満ちし、自ら本に手を伸ばす児童を育てていきたい。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
第一次 構造と 内容の 把握	1	1 音読劇「スイミー」を鑑賞し、音読劇のイメージもつことで学習への意欲を高める。 2 「お手紙」を読み、感想を話し合う。	○これまで学習してきた物語文の音読の工夫を確認する。 ○他校の2年生が行った「スイミー」の音読劇(動画)を鑑賞し、やってみたいという気持ちを高める。 ○音読「劇」には動作や声の出し方を工夫したり、言葉が加わったりしていることを確認する。 ○「スイミー」の音読劇台本を提示し、台本とその役割を知る。 ○登場人物の様子や気持ちを考えて台本を書き、音読劇で表したいという思いをもてるようにする。 ○初発の感想を交流し、単元の学習のめあてをもつ。	
		【「お手紙」でがんばること】 がまくんとかえるくんのようにすについて話し合い、音読げきであらわそう。		
	2	3 物語の大体を捉える。	○全文シートを使って、登場人物や主な行動を場面ごとに確認する。 ○登場人物の様子を想像するには、挿絵や会話にも着目することを指導する。	◆【思考・判断・表現①】 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかの確認 ★発言・記述
	2	1 音読をしながら、会話文の主語を捉える。 2 「お手紙」を登場人物と地の文に分かれて音読し、登場人物の人柄のおおよそを捉える。 3 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 4 学習課題と読みのポイントを確認する。 【学習課題例】 ○なぜ、ふたりともかなしい気分なのか。 ○なぜ、かえるくんはがまくんに手紙の中みをおしえたのか。	○全文シートを使って、会話文の主語を色分けしながら捉え、登場人物や場面の様子を理解できるようにする。 ○登場人物ごとに分けて音読することで、場面を通して、登場人物の様子や人柄に気付くことができるようにする。 ○物語のよさやくわしく読みたいこと、音読で表現したいことなど、児童の考えを引き出し、学習計画の見通しがもてるようにする。 ○児童の学習感想を基に場面ごとに学習課題を設定する。以降、追加修正を随時していく。 ○読み手の考えが聞き手に伝わる音読劇をするためには、学習課題について想像しながら本文を読み取ることが大切であることを確認する。	◆【知識・技能①】 語のまとまりや言葉の響きに気を付けて、言葉のもつ意味を捉えているかの確認 ★音読・発言・記述
		【気をつけて読むこと】(読みのポイント) ① 気持ちがあられている言ばや行どう ② 気持ちがあられている言い方や表じょう		
		5 学習のまとめと次の学習の見通しをもつ。	○シリーズ本を紹介する。学校図書館を利用する時間や朝読書の時間などを使って、シリーズ本の並行読書を進めるようにする。	

3 1 学習計画を確認し、学習の見通しをもつ。 ○学習課題について考え、音読劇台本を書くことを確認する。

(学習課題) なぜ「ふたりともかなしい気分なのか」、それがわかる音読げきをしよう。

2 1 場面を音読しながら学習課題について自分の考えをもつ。
【具体的にイメージ】
・何をしたのか
・どのような表情・言い方・様子
【想像する】
・行動の理由

○「読みのポイント」の確認をする。
1 気もちがあらわれている言ば・行どう
2 気もちがあらわれている言い方・表じょう

○登場人物の言い方をいろいろな読み方で試したり、実際に動いてその理由を考えたりすることを促す。

3 グループで音読をしたり、動作を付けたりしながら学習課題について、考え、音読劇台本を作る。

○繰り返し音読することを通して「かなしい」「ふしあわせ」の言葉だけではなく、2人の悲しさが表れている叙述に気付かせる。

○自分の役と同じ役の子に相談に行くことやグループ同士見合って参考にできることを知らせる。

自分の解釈と音読を繰り返しながら、読みを明確にしていく。

4 グループごとに音読劇台本を基に音読をして、学習課題についての解釈を共有する。

○音読劇台本（ワークシート）に登場人物の気持ちや台詞を記入することで、「ふたりともかなしい気分」という言葉について着目し、捉え直せるようにする。

5 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。

○他のグループの音読や学習課題についての解釈を知り、自分の感じ方や考え方を振り返る。

4 本時 1 学習計画を確認し、学習の見通しをもつ。 ○前時の学習を基に、自分たちで4場面の学習を進めることを確かめる。
・音読の工夫
・音読劇台本の書き方

学習課題「なぜ、かえるくんは手紙の中みをがまくんに教えてしまったのか」それがわかる音読げきをしよう。

2 4 場面を音読しながら学習課題について自分の考えをもつ。
【具体的にイメージ】
・何をしたのか
・どのような表情・言い方・様子
【想像する】
・行動の理由

○登場人物の言い方をいろいろな読み方で試したり、とった行動を実際に動いたりしてその理由を考えることを促す。
・見ました。のぞきました。
・ばからしいこと いうなよ。
・でも きやしないよ。
・きっと くるよ。

○自分の役と同じ役の子に相談に行くことやグループ同士見合って参考にできることを知らせる。

3 グループで音読をしたり、動作を付けたりしながら学習課題について、考え、音読劇台本を作る。

○音読劇台本（ワークシート）に登場人物の気持ちや台詞を記入することで、「なぜ、手紙の中みを教えたのか」という行動をとったのかその理由について着目し、捉え直せるようにする。

◆【知識・技能①】
語のまとまりや言葉の響きに気を付けて、言葉のもつ意味を捉えているかの確認
★音読・発言

◆【思考・判断・表現②】
登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などから想像して読み取っているかの確認
★音読・発言・記述

自分の解釈と音読を繰り返しながら、読みを明確にしていく。

- 5
- 4 グループごとに音読劇台本を基に音読をして、学習課題についての解釈を共有する。
 - 他のグループの音読や学習課題についての解釈を知り、自分の感じ方や考え方を振り返る。
 - 5 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。音読劇台本を基に音読をする。
 - 次時では自分が登場人物の様子を深く考えてみたい場面の音読劇台本を作ることを確認する。
 - 1 学習計画を確認し、学習の見直しをもつ。
 - あらかじめ、選んだ場面や役割ごとにグループを編成しておく。
 - 前時の学習を基に自分たちで学習を進めることを確認する。

自分がえらんだばめんの、がまくんやかえるくんのようにすについて話し合い、音読げき台本を考えよう。

- 2 選んだ場面の学習課題を確認する。
 - 児童の感想から立てた学習課題を提示する。

場面 *は学習済	学習課題の例
*①お手紙をまつかなしい気分の二人	・なぜ、「ふたりともかなしい気分」なのでしょう。
②お手紙を書くかえるくん	・なぜ、かえるくんは、自分で手紙をとどけなかったのでしょうか。
③何回もまどからゆうびんうけを見るかえるくん	・かえるくんは、お手紙をどんな思いでまっていたのでしょうか。
*④自分がお手紙を書いたことを言ってしまったかえるくん	・なぜ、かえるくんは手紙の中身をがまくんに教えてしまったのでしょうか。
⑤お手紙をまつとでもしあわせな気持ちの二人	・ふたりは、書いてあることが分かっている手紙を、どうして長い間まっていたのでしょうか。

- 6
7
- 3 前時の学習を基にして、学習課題について、自分の考えをまとめる。
 - 音読の工夫が見付けられない児童には、いろんな読み方を試したり、実際に動いて考えたりすることを促す。ヒントカードを活用することを助言する。
 - 工夫して読むところを始めに発表し、見る人に意識させるようにする。
 - 他のグループと練習を見合い、感想やアドバイスを伝えるように指導する。
 - 同じ役柄を選んだ友達と相談タイムを設ける。学習課題を提示する。話し合ったことを音読劇に生かすことを確認する。
 - 4 グループで音読をしたり、動作を付けたりしながら学習課題について、考え、音読劇台本を作る。
 - 登場人物の様子から声の出し方や動きを表すことができたかや友達の音読劇を見てよかったことを見付けられたかを振り返るよう指導する。

自分の解釈と音読を繰り返しながら、読みを明確にしていく。

- ◆【主体的に学習に取り組む態度①】
これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしているかの確認
★音読・発言・記述
- ◆【思考・判断・表現③】
友達の音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合っているかの確認
★発言・記述

第三次 共有	8	1 学習計画を確認して、活動の見通しをもつ。		
		音読げきはっぴょう会をして友だちの音読げきのくふうを見つけよう。		
	2 音読劇発表会をする。	○工夫して読むところを最初に発表し、見る人に意識させるようにする。	◆【思考・判断・表現③】 文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合っているかの確認	
	3 感想を交流する。	○友達からの感想を聞き、自分たちの発表のよさに気付けるようにする。	★発言、記述、観察	
4 単元全体を振り返る。	○言葉に着目することで、物語の読みが深まることや「かなしい」「ふしあわせ」という直接的な言葉だけではなく、登場人物の行動や会話・様子・口調などからも様子が想像できることを確認する。 ○本単元で身に付いた学びのワザ（読み方や音読劇のワザ）をまとめる。 ○繰り返し音読したり、友達と話し合ったりすることで、物語を読む楽しさが広がることを確認する。	◆【思考・判断・表現②】 登場人物の行動やその理由を表情、口調、様子などで表していたかの確認 ★音読・発言・記述・観察		

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

音読の工夫を考えることを通して、登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を基に自分たちで4場面の学習を進めることを確かめる。	○座席をグループにして、役柄ごとに席の位置も固定することで、指導しやすくする。	
学習課題「なぜ、かえるくんは手紙の中みをがまくんに教えてしまったのか」それが分かる音読げきをしよう。		
2 4場面を音読しながら学習課題について自分の考えをもつ。 【具体的にイメージ】 ・何をしたのか ・どのような表情・言い方・様子 【想像する】 ・行動の理由	○前時の学習を基に、自分たちで4場面の学習を進めることを確かめる。 ・音読の工夫 ・音読劇台本の書き方 ・読みのポイント 1 気もちがあらわれている言ば・行どう 2 気もちがあらわれている言い方・表じょう ○音読劇台本の書き方をいつでも確かめられるように、教室に掲示しておく。また、「スイミー」の音読劇の動画や音読劇台本を参考にできるように用意しておく。	◆【思考・判断・表現②】 登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などから想像して読み取っているかの確認 ★音読・発言・記述
3 グループで音読をしたり、動作を付けたりしながら学習課題について考え、音読劇台本を作る。 自分の解釈と音読を繰り返しながら、読みを明確にしていく。	○グループでの話し合い方 ・自分の考えの理由を伝えて交流する。 ・着目した叙述が同じで、相対する理由や読み方が出たときは、音読して確かめる。 ○グループの話し合いの状況に応じて、登場人物の言い方をいろいろな読み方で試したり、登場人物の行動を実際に動いてその理由を考えたりすることを促す。 ・見ました。のぞきました。 ・どうして きみ ずっとまどのそとを見	○おおむね満足できる児童への本時以降の手立て 解釈したことを理由も添えてワークシートに書かせるようにする。 ○おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て 自力解決が困難な児童音読の工夫が見付けられない児童には、 ・前時までに行っていたいろいろな読み方を試したり、実際に動いて考えたりすることを促す。

<p>4 グループごとに音読劇台本を基に音読をして、学習課題についての解釈を共有する。</p> <p>5 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>ているの。 ・でも きやしないよ。 ・きっと くるよ。 ・だって、ぼくがきみにてがみだしたんだもの。</p> <p>○自分の役と同じ役の子に相談に行くことやグループ同士見合って参考にできることを知らせる。</p> <p>○音読劇台本（ワークシート）に登場人物の気持ちや台詞を記入することで、「なぜ、手紙の中みを教えてしまったのか」という行動をとったのかその理由について着目し、捉え直せるようにする。</p> <p>○他のグループの音読や学習課題についての解釈を知り、自分の感じ方や考え方を振り返る。</p> <p>○次時では自分が登場人物の様子を深く考えてみたい場面の音読劇台本を作成を確認する。</p>	
---	--	--

8 資料

電子黒板

- 学しゅうのながれ
- 1 はじめの音読
 - 2 学しゅうかたいのかくにん
 - 3 自分で考える
 - 4 グループで考える
 - 5 グループの発表
 - 6 ふりかえり

4 場面の音読台本シート

挿絵

読みのポイント

- ・気持ちがわかる言葉・こうどう
- ・気持ちがわかる言い方・表じよう

・言えば・・・がまくんが、あきらめないで、手紙をまっすぐくれるから。
 (いい手紙、じしん作)
 二どうれしいから。
 (①聞いて②読んで)
 手紙を待つのは楽しみな時間
 と思ってくれるから。

「お手紙」
 ◎学しゅうかたい「なぜ、かえるくんは手紙の中みをがまくんに教えてしまったのか」それが分かる音読げきをしよう。

- ・手紙がなかなか来ないから。おそいから。
- ・親友だから。
- ・言わないと・・・がまくんが、おこるから。
 しんじてくれないから。
- ・手紙をまっすぐくれないから。

「お手紙」学習計画

時間	学しゅうすること	ふりかえり
1	「音読げき」って？ 「お手紙」のかんそうをつたえよう	
2	やくに分かれて音読しよう 学しゅう計画を立てよう	
3	1ばめんを読んで、音読げきのだい本をつくろう（みんなで） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">学習かだい</div>	
4	4ばめんを読んで、音読げきのだい本をつくろう（グループで） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">学習かだい</div>	
5	音読げきのれんしゅうをしよう	
6	お気に入りのばめんをえらび、音読げきのだい本をつくろう （グループで） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">学習かだい</div>	
7	中間はっぴょう会（同じばめんグループどうし）	
8	音読げきはっぴょうかい（クラスで） 学しゅうのふりかえり	

「お手紙」学習材分析（作・アーノルド＝ローベル）

場面	あらすじ	予想される音読劇の工夫	工夫の根拠となる叙述	考えさせたいこと
① 導 入 お 手 紙 を 待 つ 悲 し い 気 持 ち の 二 人	かえるくんは、がまくんが一度も手紙をもらったことがないことを知って悲しみ、急いで家へ帰る。	<p>○「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」 (いつもと違う様子に気付いて、あれという感じで。立ってポケットに手を入れて歩いてくる。)</p> <p>○「うん、そうなんだ。」 (かなしい、くらい感じで。玄関に座って。)</p> <p>○「今、一日のうちのかなしい時なんだ。つまり、お手紙をまつ時間なんだ。そうすると、いつもぼくとでもふしあわせな気持ちになるんだよ。」(とても悲しく、不幸せそうに、小さく。玄関に座って頭を抱えて。)</p> <p>○「そりゃ、どういうわけ。」(おどろいて、意味が分からないという感じで。かえるくんに近づいて。)</p> <p>○「だって、ぼく、お手紙もらったことないんだもの。」 (すねた感じで、下を向いて。)</p> <p>○「いちどもかい。」少しおどろいた感じで</p> <p>○「ああ。いちども。」 (そうだよ、一度もだよという感じであきらめた感じで。うなづきながら。溜息をついて。)</p> <p>○「だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがないんだ。毎日ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。お手紙をまっているときがかなしいのは、そのためなのさ。」 (あきらめた感じで、悲しく。さらに頭をかかえて、また下を向く。)</p> <p>○ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下していました。 (今日も、手紙は来ない。悲しいな。) (郵便受けを見つめ、やっぱり来ないなと悲しそうに。そうだったんだ。がまくんがこんな悲しい気持ちなんて、いやだなあ。たしかに、来ない手紙を待つのはつらいだろうな。)</p> <p>○すると、かえるくんが言いました。 (急に思いついたように、とつぜん、立ち上がって)</p> <p>○「ぼく、もう家へかえらなくっちゃ、がまくん。しなくちやいけないことが、あるんだ。」 (あわてた感じで、いいことを思いついた感じで。)</p>	<p>○挿絵のかえるくんとはがまくんの表情。</p> <p>○「きみ、かなしそうだね。」</p> <p>○「今、一日のうちのかなしい時」「ふしあわせな気持ちになる。」</p> <p>○「そりゃ」</p> <p>○「だもの」</p> <p>○「ああ。」</p> <p>○「ぼくにお手紙なんか。・・・空っぽさ・・・そのためなのさ。」</p> <p>○ふたりとも、かなしい気分でげんかんの前にこしを下していました。</p> <p>○「かえらなくっちゃ。しなくちやいけないことが、あるんだ。」</p>	<p>○題名の「お手紙」とは、</p> <p>○なぜ、がまくんは玄関の前に座っていたのか。何を待っていたのか。</p> <p>○どちらが、がまくん、どちらがかえるくんなのか。</p> <p>○二人の関係性は、「きみ」と声を掛けられ、「うん」と答えている。がまくんは、「だって、ぼく・・・だもの。」と答えている。</p> <p>○一日のうちのかなしい時はお手紙を待つ時間であること。</p> <p>○がまくんは来ない手紙をずっと待っていたのはなぜだろう。</p> <p>○「そりゃ」という言葉を使うとき。</p> <p>○「だもの」という語尾から受ける印象。</p> <p>○「ああ。」にはどのような意味が込められているか。</p> <p>○「そのためなのさ。」のそのためとは何か。</p> <p>○二人とも、かなしい気分で玄関の前に、腰を下ろしていたのはなぜか。かえるくんはなぜかなしいのか。座って何を考えていたのか。</p> <p>○かえるくんは、何を急いでいるのか。しなくちやいけないこととは何か。</p> <p>○かえるくんは、何を手紙に</p>
②	かえるくんは、あわて	○「家へ帰りました。見つけました。書きました。」	○かえるくんは、大いそ	

<p>展開1</p> <p>お手紙を書くかえるくん</p>	<p>て家へ帰り、がまくんに手紙を書いて、途中で会ったかたつむりくんに手紙を届けてくれるよう頼んだ。</p>	<p>入れました。書きました。」 (急いでいる感じで、早口で)</p> <p>○「がまがえるくんへ」 (大きく、はっきりと。封筒を書いている素振りです。)</p> <p>○かえるくんは、家からとび出しました。(できたー。うれしそうにいそぎながら。家をとび出て。)</p> <p>○「かたつむりくん。」(いいところにいたという感じで。うれしそうに話し掛けて。)</p> <p>○「おねがいでけど、このお手紙をがまくんの家へもって行って、ゆうびんうけに入れてきてくれないかい。」(優しい感じで、ひざを曲げて視線を合わせて。)</p> <p>○「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」(張り切っている感じで。うなずいたり、OKサインを出したり、胸をたたいたりしながら。)</p> <p>○それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました</p>	<p>ぎで家へ帰りました。</p> <p>○家からとび出しました。</p> <p>○挿絵</p> <p>○「おねがいでけど・・・」</p> <p>○「まかせてくれよ。すぐやるぜ。」</p>	<p>書いたのだろう。</p> <p>○なぜ、自分で手紙を渡さずに、かたつむりくんをお願いしたのか。</p> <p>○かたつむりくんにたのんだら、遅くなってしまうと思わなかったのだろうか。</p> <p>○頼まれたかたつむりくんの気持ち。</p>
<p>③</p> <p>展開2</p> <p>何回も窓から郵便受けを見るかえるくん</p>	<p>手紙を来るのを待つかえるくとあきらめ気味のがまくん</p>	<p>○がまくんは、ベットでお昼寝をしていました。</p> <p>○「がまくん、きみ、おきてさ、お手紙がくるのを、もうちょっとまってみたらいいと思うな。」 (あのね、秘密なんだけど手紙は来るんだよという感じで。優しく声を掛ける。)</p> <p>○「いやだよ。」 (何言ってるんだよ、来ないよとちらつとかえるくんを見ながら。)</p> <p>○「ぼく、もうまっているの、あきあきしたよ。」</p> <p>○かえるくんは、まどからゆうびんうけを見ました。かたつむりくんは、まだやって来ません。」 (まどからゆうびんうけを見ながら、まだ来ないよなど確認しながら。)</p> <p>○「がまくん。」(言いたいけれど、まだ秘密にして喜ばせないな。)</p> <p>○「ひょっとして、だれかが、きみにお手紙をくれるかもしれないだろう。」 (明るい声で、軽い感じで)</p> <p>○「そんなこと、あるものかい。」「ぼくにお手紙をくれる人なんて、いるとは思えないよ。」(しつこい、かえるくんに少し怒りながら。ベットから身体を起こして。)</p> <p>○かえるくんは、まどからのぞきました。かたつむりくんは、まだやって来ません。(そろそろかな。まだかなと郵便受けの方を窓からのぞきこんで。)</p> <p>○「でもね、がまくん。」「きょうはだれかが、きみにお手紙くれるかもしれないだろう。」</p>	<p>○挿絵</p> <p>○ベットでお昼寝をしていました。</p> <p>○「・・・いいと思うな。」</p> <p>○「・・・あきあきしたよ。」</p> <p>○見ました。まだやって来ません。</p> <p>○「ひょっとして、・・・だろう。」</p> <p>○あるものかい。</p> <p>○「・・・くれる人なんて、いるとは思えないよ。」</p> <p>○見ました。まだやって来ません。</p> <p>○「でもね、きょうはだれかが、・・・れないよ。」</p>	<p>○なぜ、がまくんは手紙を待つのをやめて、お昼寝をしていたのか。</p> <p>○1回目のやり取りの様子。</p> <p>○あきたよではなく、あきあきしたよの意味。</p> <p>○1回目の郵便受けチェック。(見ました。)</p> <p>○2回目のやり取りの様子</p> <p>○がまくんの言葉を聞いてかえるくんはどう感じたか。</p> <p>○2回目の郵便受けチェック(のぞきました。)</p> <p>1回目の見ると2回目ののぞきの違いは、</p> <p>○3回目のやり取りの様子。口調や言葉はどう変化し</p>

		(読得するような感じで、強く。) ○「ばからしいこと、言うなよ。」「今まで、だれもお手紙くれなかったんだぜ。きょうだって同じだろうよ。(怒った感じで、ベットから出て、すねた感じも出しながら。)	○ばからしいことというなよ。 ○「今までだれもくれなかったんだぜ。今日だって同じだろうよ。」	ているか。 ○がまくんの言うばからしいこととは何か。
④ 山場 手紙を書いたことを聞いて、喜ぶがまくん	かえるくんが手紙を書いてくれたことや手紙の内容知り、喜び、幸せな気持ちで待つ二人。	○「かえるくんは、まだからのぞきました。かたつむりくんは、まだやってきません。」 ○「かえるくん、どうして、きみ、ずっとまどの外を見ているの。」(いつもちがうかえるくんの様子に気付き、不思議に思って、自分もまどの方に近づいてきて。) ○「だって、今ぼく、お手紙を待っているんだもの。」(ああ思わず言ってしまったという感じで) ○「でも来やしないよ。」(何いつているのという感じで) ○「きっとくるよ。」(強く、がまくんの方を見て) ○「だって、ぼくがきみにお手紙だしたんだもの。」(実はねという感じで、一緒に手紙待とうね、ぼくは親友だから手紙を書いたんだという気持ちで。) ○「きみが」(とても驚いて、かえるくんの方とゆうびんうけを見ながら。) ○「お手紙になんて、書いたの。」(わくわくした感じで、かえるくんの目を見て) ○「『親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。』」(ゆっくり、力強く、自信をもって) ○「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」(しみじみとすごくいい手紙だなあという気持ちをこめて、感動した感じで)	○挿絵 ○「どうして、ずっとまどの外をみているの。」 ○「でも来やしないよ。」 ○「きっとくるよ。」 ○「だって、ぼくがお手紙をだしたんだもの。」 ○「きみが。」 ○「お手紙に、なんて書いたの。」 ○親愛なるがまがえるくん。きみがぼくの親友であることをうれしく思っています。 ○「ああ。」 ○「とてもいいお手紙だ。」	○3回目の郵便受けチェック。 ○がまくんはいつ、ベットか起き上がったきたのだろう。 ○かえるくんはどうして、がまくんに手紙を書いたことを言ってしまったのか。 ○もともとかえるくんはがまくんに手紙のことを言うつもりだったのか。 ○親愛なるや親友の意味。 ○かえるくんは、なぜ手紙の中身まで教えてしまったのか。 ○「ああ」と前述の「ああ」との違い。
⑤ 終末 とても幸せな二人	四日たってかたつむりくんが家に着き、手紙をもらって、とても喜ぶがまくん。	○それから、ふたりは、げんかんに出て、お手紙の来るのをまっています。ふたりとも、とてもしあわせな気持ちでそこにすわっていました(手紙を待つってこんなに幸せな気持ちなんだな。がまくんが幸せそうでぼくも幸せ。) ○長いことまっていました。四日たって、かたつむりくんががまくんの家につきました。(ゆっくりと時間をかけて) ○お手紙をもらって、がまくんは、とてもよろこびました。(とてもうれしそうに)	○ふたりはげんかんに出て、お手紙がくるのをまっていました。 ○ふたりともとてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました ○長いこと ○四日たって、 ○とてもよろこびました。 ○挿絵	○二人はどんな気持ちで手紙を待っていたのか。手紙を待つ時間はどんな時間だったか。1場面との違いは ○待っている間にどんなことを話していたのか。 ○かたつむりくんは四日間どんな気持ちで進んでいたのか。 ○手紙がすぐに届いたほうがよかったのか、四日待ったほうがよかったのか。